

こんしゅう せんらいしゃ
今週のことば「洗礼者ヨハネ」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》ルカによる福音書 3:1-6

で し
ヨハネの弟子たち

せんらいしゃ わたし
洗礼者ヨハネについて、私たちはキリ
しゃ たれば か さんこう
スト者の立場から書かれたものを参考に
せんらいしゃ
しています。つまり、洗礼者ヨハネのそ
すがた わたし み
のままの姿を私たちは見ていないという
ことになります。

せんらいしゃ で し
洗礼者ヨハネにも弟子たちがいて、イ
で し おな ひと
エスの弟子たちと同じように、一つのグ
つく かんが
ループを作っていたと考えられています。
かんが せんらいしゃ
このグループの考えによると、洗礼者ヨ
さいらい よげんしゃ れつおろ
ハネは再来の預言者エリヤであり、列王
きげ で けごろも き こし
記下1:8に出てくる「毛衣を着て、腰に
かわおび し すがた
は革帯を締めていた」エリヤの姿そのも
のでした。

しよ で みち かん
イザヤ書40:3に出てくる「道」は、神
よ お ひ ぜん せかい
が世の終わりの日に全世界をさばきにと
みち せんらいしゃ
られるための道なのです。洗礼者ヨハネ
しよ で ししゃ
は、マラキ書3:1に出てくる使者として
かんが
考えられていました。

せんらいしゃ あつ ひと
洗礼者ヨハネのもとに集まった人たち
ひろ ちいき およ
は、かなり広い地域に及んでいたようで
しゃかい ちゅうりゅういか まず
あり、しかも、社会の中流以下の貧しい

ひと
人たちがほとんどであったようです。こ
い み で し おな
の意味では、イエスの弟子たちと同じよ
かいせう ひと きょうつう ようそ
うな階層の人たちであり、共通する要素
おお
が多かったのです。

せん く しゃ
先駆者ヨハネ

せんらいしゃ せんく しゃ めいしゅう
洗礼者ヨハネに先駆者という名称をつ
で し かみ
けたのはイエスの弟子たちです。神のさ
まゑ かんが
ばきの前にくるエリヤと考えられていた
せんらいしゃ とうらい せんく しゃ
洗礼者ヨハネを、イエスの到来の先駆者
いち
と位置づけたのです。

せんらいしゃ よ お ちか
洗礼者ヨハネが、世の終わりが近いこ
ひとびと つみ
とを人々にうったえて、罪のゆるしのた
く あらた せんらい ひとびと
めの悔い改めの洗礼を人々にせまったこ
のち で し せんきゅう き
とは、後にイエスの弟子たちの宣教の基
ほん
本にもなっていました。

せんらいしゃ おお ひとびと あつ
洗礼者ヨハネのもとに多くの人々が集
しゅうまつ ちか かん かん
まったのは、終末の近いことを感じて神
はたら き たい せんらいしゃ
の働きを期待していたからです。洗礼者
こうどう とお わたし
ヨハネの行動を通して、私たちがクリス
なに き たい み
マスにおいて何を期待しているのかを見
い み
つめなおし、クリスマスの意味をあらた
かんが
めて考えましょう。

たいこうせつだい しよじつ ねん たきの
待降節第2主日C年(滝野)